



地域からの発信

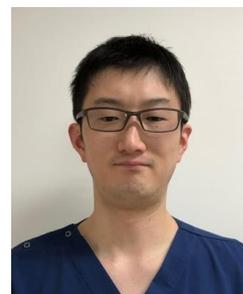
☆推薦文☆

「圧迫骨折患者での入院期間長期化に関する臨床研究」についての論文です。「結果は、事前の状態でいい群は早く退院した、という当たり前の結果である。当たり前のことを当たり前のこととして出すのも意味がある。参考にすべき論文がないのであれば、なおさらである。是非頑張ってもらいたい。」とコメントを返しましたが、初回投稿の査読結果では”*However, I hesitate to consider it ready for publication as an original article, mainly because of the lack of hypothesis and novelty.*”と書かれるなど厳しいものでした。しかしながら、高齢化社会の日本だからこそ発信すべき内容、との渡邊先生の信念と熱意が査読者にも伝わった結果と感じています。こちらのコメントや査読結果に対する修正もびっくりするくらい早く、論文執筆の基礎ができているなど感じしていました。今後も日々の診療を一つ一つ形にできるように頑張っていたいただきたいと思います。

自治医科大学医学教育センター 石川鎮清

常陸大宮済生会病院内科 渡邊裕介（茨城県 33 期卒業）

論文名「**Determinants Associated with Prolonged Hospital Stays for Patients Aged 65 Years or Older with a Vertebral Compression Fracture in a Rural Hospital in Japan.**」



皆様初めまして、茨城県 33 期卒業の渡邊裕介と申します。現在、私は僻地の中核病院であります常陸大宮済生会病院で内科として勤務しております。

この度、同病院でまとめた臨床研究が、自治医科大学 CRST (Clinical Research Support TEAM in JMU) の先生方にご指導いただき、The Tohoku Journal of Experimental Medicine に掲載される運びになりましたので、報告させていただきます。

臨床研究の内容は 65 歳以上の腰椎圧迫骨折患者における長期入院となる規定因子を調べさせていただきました。高齢化に伴い肺炎や尿路感染、心不全、圧迫骨折などはどの地域でもありふれた疾患であり、都市部も含め全ての医療者が日々携わっているかと思えます。私の地域では整形外科医が常勤でいる病院はなく、手術など侵襲的な処置が必要な方は 1 時間程度かけて都市部まで搬送になっている状況です。ですが、手術を必要としないまでも痛みなどのため自宅生活が困難な腰椎圧迫骨折の患者さんは当院に入院して保存的に加療をしております。その人数は 1 年間で約 80 人程度に上ります。そして、入院後の経過は千差万別であり、数日で退院される方もいれば、中々退院できずに病院が自宅代わりになってしまう方もいます。そして、現在の日本の在院日数は先進国の中でも群を抜いて長いことは以前から叫ばれているとおりであり、国としては入院期間短縮や医療費削減のための政策が進めていることも事実かと思えます。しかし、地域では都市部とは違い急性期病院から療養型病院へ転院をすることにより入院日数を短縮するようなことは困難であり、私たちのような病院では自宅へ戻るか、それとも長期間待つて施設入所や療養型病院へ退院・転院するしか道はありません。これはどこの地域でも、同じなのではないかと思えます。

今後の医療を考えるうえでも、高齢者の入院期間を短縮できる要因があるのであれば、地域からでも日本の医療に貢献でき、さらには患者さんの QOL も向上するのではないかと考え、当院の強みを生かして腰椎圧迫骨折患者において臨床研究を行うこととしました。

結果としては、独居であることや ADL が不良で独歩困難であることが長期入院につながることを示せました。ですが、新規性という面では弱く論文化するのには難しいかと思いました。そこで思い出したのが CRST です。早速、CRST に連絡したところ、石川鎮清教授に御指導いただけることとなりました。最初はあきらめかけていた論文化ですが、先生の熱心なご指導により形にすることができました。石川先生とのやり取りはメール履歴をみて振り返ってみると、その回数は 2 桁に渡っていましたが、あきらめずに指導いただいた石川先生には頭が下がる思いです。

この臨床研究が、これからさらに超高齢化社会となる日本の医療を考える際に少しでも貢献できることを夢見て今回の Newsletter を締めくくりたいと思います。また、この経験を私だけのものにするのではなく、同じ地域で働く後輩医師達にも還元していけるように、研鑽を積んでいきたいと思えます。

最後になりますが、私のような若輩者に熱心にご指導をいただきました自治医科大学医学教育センター副センター長 石川鎮清教授、石川先生を紹介いただきました自治医科大学地域医療オープン・ラボ 亀崎豊実教授にこの場をお借りし心からお礼を申し上げます。



常陸大宮済生会病院「病院まつり」2018年10月20日

当院で毎年行っている地域住民との交流をテーマにした感謝祭の記念撮影

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

〔発行〕自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>